

## 平成 30 年第 4 回定例会（H30 年 12 月 03 日）

○4 番（櫻井 茂君） おはようございます。4 番・櫻井 茂です。通告に従いまして、一問一答方式で質問させていただきます。

まず、石岡のおまつりの受け入れ態勢についてお伺いをしてまいります。

石岡のおまつりは関東三大祭りとしまして、関東一円、さらには全国各地からも多くの観光客が訪れる祭りとして定着し、平成最後の今年は、過去最高の 48 万 8,000 人の人出となりました。市長は平成 26 年第 4 回定例会で、石岡のおまつりでの交流人口について、数年以内に 60 万人を目指したいと発言しております。その年、平成 26 年のおまつりでは 47 万 8,000 人が訪れたとされております。そして今年は、14 日の中日が 20 万人を超えたことで、60 万人という数字も射程距離に思える部分もあるかと思えます。しかし、駐車場の不足、仮設トイレの場所がわからない、くつろげる場所がないなどの苦情も寄せられており、受け入れ態勢は十分とは言えません。今後、観光客数 60 万人を目指すための受け入れ態勢の強化について、質問してまいりたいと思います。

平成 16 年から、ハッピーマンデーを活用しまして、敬老の日を最終日とする 3 連休で、石岡のおまつりである常陸国総社宮例大祭を実施するようになりまして、観光客の増加とともに、見せるまつりを意識した各町内の取り組みが実を結び始め、まつりの質についても大きく向上したのではないかと考えております。

そこで、観光客の受け入れ態勢について、これまでの成果と反省点をどのように分析しているのかについて、お伺いをいたします。

○議長（岡野孝男君） 経済部長・諸岡君。

○経済部長（諸岡広明君） これまでの成果と反省点につきましてご答弁申し上げます。今年、観光客数が 48 万 8,000 人と、過去最高の入り込み客数となりました石岡のおまつりでございますが、これまでの成果としましては、平成 15 年度に現在の石岡のおまつり振興協議会発足以降、関係者の努力によりまして、敬老の日を最終日とする現在の日程に変更したことが大きな成果となり、観光客数が増えてきておるところでございます。

そのほか、水戸信用金庫駐車場に観覧席の設置や、平成 15 年度以降は観光客が増えてきたことから、仮設トイレや警備員を増やしてきております。また、石岡のおまつり自体が、自分たちが楽しむおまつりから見せるおまつりへと変わってきていることや、おまつりとあわせ、市内外の団体による各種イベントの開催がされるなど、官民がそれぞれおまつりを盛り上げるため取り組んできてございます。

そのほか、近年は、高校生などのクリーンアップボランティアによる清掃活動や、赤ちゃんの駅の設置、山車や獅子の位置がわかるサービスの開始を進めてございます。今年度、新たに放送設備を活用した石岡のおまつりの見どころ案内や、空き店舗を活用した高齢者・障がい者向け休憩所を設置するなど、受け入れ態勢の強化と石岡のおまつり魅力アップに向け、取り組んでいるところでございます。

このような中で、課題として、今年、最高の来場者数になった中で、駐車場やトイレ、休憩所が不足しており、来場者より苦情を受けるなど、今後、観光客 60 万人を目指す

中での課題となっているところでございます。

以上でございます。

○議長（岡野孝男君） 4番・櫻井 茂君。

○4番（櫻井 茂君） ただいま部長のほうから、これまでの石岡のおまつりに対する受け入れ態勢を長年にわたり整備してきた答弁をいただきました。そういう中で、成果と反省点についても触れていただきましたけれども、供奉行列や幌獅子パレード、あるいは山車大行列等を、まつり参加者、あるいは観光客の方々が盛んに、近年はSNSに静止画や動画を投稿されていることなどで、石岡のおまつりの見どころが今、より多くの方に広まったという効果もあると思います。

ただ、幼いころよりまつりに参加、あるいは身近に見てきたいわゆる内からの目ですね、この目線と外からの目線、観光客のような外からの目線では、まつりの見え方も当然変わってくるものと思います。受けとめ方も変わると思います。そこで、今年初めて石岡のおまつりを体験された副市長に、副市長は今年、供奉行列に参加されたかと思えますので、石岡のおまつりのよさと課題について、いわゆる外からの目線の部分を率直にご答弁いただければと思います。

○議長（岡野孝男君） 副市長・根本君。

○副市長（根本博文君） お答えを申し上げます。個人的にもお祭りは大好きでございまして、今回の石岡のおまつりに参加できたということにつきましては、望外のよい経験となりました。お祭りは、日本文化の象徴でもあり、地域の帰属意識や一体感の形成に大きな意義を持つものと認識をしております。

そうした中、石岡のおまつりは、各町内会単位でのまとまりが基礎となっておりまして、山車や幌獅子などの出し物を自慢し合いながら、老若男女がともに参加し、そして支援し、楽しんでいる姿を今回見ることができまして、今後の市の活性化や観光振興の面での資源としても、大切に伝承・保存していくべきものだと感じました。

特に今年のおまつりは、記録を取り始めてから過去最高の48万8,000人という来場者でにぎわったわけでございます。中日には20万人を超えたとの報告も受けているところでございますので、今後、目標とする観光入り込み客数60万人規模のおまつりとするためにも、おまつりに参加する人、見に来られる方々が全て、安全で安心して楽しめるおまつりになるように、行政としても関係団体等、検討と工夫を重ねていかなければならないと感じてございます。

具体的な課題といたしましては、私が率直に感じましたのは、やはり過去最高の人出を出した今年を見ますと、もう少し人が滞留するゾーンが必要なのかなということも、あわせて考えたところでございます。

以上でございます。

○議長（岡野孝男君） 4番・櫻井 茂君。

○4番（櫻井 茂君） 率直なご意見を承りましてありがとうございます。

続きまして、2点目、受け入れ態勢をどのように強化し、観光客60万人を目指すのかについてでございますけれども、60万人を目指すとなりますと、今年の48万8,000人から逆算しますと、あと13万人近い方を受け入れるということになります。1日当たり平均では4万人強が増える、あるいは増やそうということになるわけござい

ます。例えば50人乗りの観光バス100台の駐車スペースを設けて、100台来たとして5,000人、あるいはJR臨時列車、150人が1両に乗ったとして、10両編成で1,500人、これが上り下り5便ずつで10便あったとして1万5,000人ということから行くと、大変な苦勞がそこにあるのかなと思っております。

先ほどの答弁で解決すべき課題に上げられておりました市の直接的な対応である臨時駐車場、仮設トイレ、休憩所の設置のほかにも、おまつり関係団体と民間の方々が取り組んでいる対応もございます。こうした対応等もございますのでお伺いしてまいりますけれども、まず最初に、市の直接的な取り組みについて何点か伺ってまいりたいと思います。

まず広報の充実ということで伺ってまいりたいのですが、スマートフォンの普及により、手軽に各種情報を手に入れることができるようになりました。ホームページはもちろんですが、先ほど触れましたように、SNSを活用し、今起きている情報をユーザーに積極的に発信する仕組みと体制づくりというものを市のほうでも意識して、今後さらに整備すべきだと思っておりますが、このお考えをお伺いしたいと思っております。

○議長（岡野孝男君） 経済部長・諸岡君。

○経済部長（諸岡広明君） ご答弁いたします。ユーザーに情報発信する仕組みと体制づくりにつきまして、ご答弁いたします。石岡市観光協会では、現在、ホームページによるおまつりの見どころ紹介だけでなく、いしおかファンクラブフェイスブックによるリアルタイム情報発信を行っているところでございます。この中で、議員よりご提案ございましたユーザーに情報発信する仕組みと体制づくりでございますが、現在、観光課では、おまつり期間前後を含め、SNSの担当職員を設け、いしおかファンクラブフェイスブックへの臨場感ある写真の掲載や、事前の見どころ紹介や山車、獅子位置情報システムへのフェイスブックやツイッターなどのボタン埋め込みによる情報拡散へ取り組んでいるところですが、例えば共通のハッシュタグを設け、SNSを活用した情報発信を促すよう、ポスター、チラシなどに盛り込むとともに、ユーザー自身が積極的な情報発信を行いたくなるような仕組みづくりと広報に向け、検討してまいりたいと考えております。

以上でございます。

○議長（岡野孝男君） 4番・櫻井 茂君。

○4番（櫻井 茂君） いろいろな技術を使って、いろいろな工夫をされているというのがよくわかりました。

そこでちょっとお尋ねをしますけれども、観光協会のホームページですね、皆さん今、タブレットを持っていますので、石岡市観光協会のホームページを開いていただくとわかるんですけども、石岡市の観光協会のホームページの石岡のおまつりの概要に載っている記事、データが、実は「平成29年度の年番は青木町です」というのが載っているんですね。それで、今年平成30年度は幸町ということで、これ、石岡市のホームページはほぼ同じ形態なんですけども、幸町になっています。ただ、観光協会は残念ながら「平成29年度のおまつりは青木町です」という記事が載ってしまっていて、いろいろなツールを使い、いろんな考え方で工夫をされているのはよくわかるんですけども、データの更新についても意識していただかないと、観光協会のホームページは残念ながらそのよ

うな状況なんです、これは観光協会のほうで管理しているんですか。それとも市の職員がそれを担っているのか、その点、どのような形になっているんでしょうか。

○議長（岡野孝男君） 経済部長・諸岡君。

○経済部長（諸岡広明君） 観光協会のホームページにつきましては、観光課職員が更新しているわけですが、今回ご指摘にありました、まだ29年度青木町になっているということにつきましては、大変申しわけなく思っております。今後こういうことがないよう、市のホームページ、観光協会のホームページともリンク、または徹底的な見直し等も図ってまいりたいと考えております。

以上でございます。

○議長（岡野孝男君） 4番・櫻井 茂君。

○4番（櫻井 茂君） ぜひお願いしたいと思っております。

お願いがありまして、川越など大きなお祭りをやられている市町村の祭りの情報につきましては、専用のサイトを設けているところが多いんですよ。なおかつ写真も非常に大きな写真を掲載して、迫力満点の静止画、写真、あるいは動画を載せていますので、できれば石岡市も、石岡市のホームページと観光協会のホームページの情報がほぼ一緒ですので、別におまつり専用のもをつくって、そこに導くような形のもので、1つのサイトを運営するという意味で非常に効率的じゃないのかなと思いますので、そのような対応をされたほうがよろしいのではないかと思います。またできれば、インバウンドの問題もありますので、外国語の対応も積極的に進めていただければと思います。こちらについては答弁は結構でございます。

次に、駐車場について伺ってまいりたいと思っております。課題について、駐車場のほうも述べられておりましたけれども、私自身、まつりに参加する中で、イベント広場のすぐそばに住んでいますので、町内の会所があり、今年、その会所のほうで待機していたわけですが、中日、午後3時ごろには、ほぼイベント広場の駐車場が満車となっていて、当然、それによりまして付近の道路は大渋滞となっております。これは私の家族の話なんですけれども、駐車場に入る車で大渋滞になっていた影響で、近所までは車で来たんですけども、自分のうちまでたどり着くのに1時間以上かかってしまったと。当然、駐車場に入るために待たれていた観光客の方も、同じ思いをされた方がたくさんいらっしゃると思います。

これでは、まつりの魅力を感じる前に、もう待ってられないので帰っちゃおうという方も、多分いらっしゃるのではないかなと思います。さらに言えば、山車と幌獅子の巡行そのものが交通渋滞によって動けなくなってしまうというような場面にも遭遇しておりますので、ぜひこの駐車場についてはいろいろ考えていただきたいと同時に、交通整理の部分についても再度ご検討いただければと思いますが、この辺、どのようなお考えをお持ちなのか、お伺いしたいと思います。

○議長（岡野孝男君） 経済部長・諸岡君。

○経済部長（諸岡広明君） 臨時駐車場の取り組み状況についてご答弁申し上げます。臨時駐車場の取り組みでございますが、これまでの実績としまして、一般駐車場として平成15年度が6か所で約1,540台、平成20年度が11か所で1,960台、平成25年度が10か所で2,460台、平成30年度が12か所で約2,500台となつて

ございます。平成15年度と比較しますと、平成30年度の一般駐車場は6か所、約960台増えているところでございますが、議員ご指摘のとおり、今年のおまつりでは開始後すぐに満車になってしまうなど、臨時駐車場が不足している状況にございます。

こういう中でも、60万人の受け入れ環境としては、少なくとも臨時駐車場につきましては、4,000台は確保していかなければならないと考えております。また、新たな臨時駐車場の確保や交通整理、またはJR特別列車の増便、郊外からのシャトルバスの運行など、関係各所と早期対応に向けて協議を進めてまいりたいと思っております。

以上でございます。

○議長（岡野孝男君） 4番・櫻井 茂君。

○4番（櫻井 茂君） ありがとうございます。臨時駐車場の確保については大変なご苦労が多分あると思いますので、よろしく願いしたいと思います。

1点気がついたことと言えば、去年は佐原のお祭り、今年は川越のお祭りを私、見に行きましたけれども、川越のお祭りは、駐車場が交通規制地区から離れているんですね。1キロ程度ありましたかね。石岡は、そういう意味では非常に便利なところに2か所、山新も歩いて数百メートルですね、200メートルも歩けば交通規制の駅前にたどり着きますし、イベント広場も当然、歩いて200メートルほどで香丸町の交通規制エリアに到達しますので、石岡の駐車場という意味でいけば、その2か所は非常に強みだと思いますけれども、逆に言うと、その強みが交通渋滞を引き起こしているという弱みにも結び付いてしまうという、表裏一体の点があるのかなと、そういう部分は考えてございます。

あくまでも私案ですけれども、もし有料化できるのであれば有料化して、その費用をさらに臨時駐車場の確保に回すという点もあるのかなと。送迎バス等の充実ということでいけば、離れたところに駐車場を確保して、送り迎えしていただければ、そのほうが多分、観光客の方はより楽に見られるということもあるかと思えます。川越に行った際は、帰り1キロ以上、お土産を持って歩いたときには非常につらかった思いが今回しておりましたので、そのようなことも考えていただければと思います。

次に、休憩所の点についてご質問させていただきます。食事や休憩できるお店がたくさんあれば、利用していただけるわけでございますけれども、残念ながら石岡の中心市街地、空き店舗が非常に増えているというような状況もあります。空き地や空き店舗に臨時的な店舗や休憩所を設置されている方も、最近は見かけるようになってきましたけれども、まだまだ不足しております。このような点、どのような対応を考えておられるのかお伺いしたいと思います。

○議長（岡野孝男君） 経済部長・諸岡君。

○経済部長（諸岡広明君） 休憩所の取り組み状況についてご答弁いたします。休憩所の取り組み状況ですが、今年度、水戸信用金庫駐車場に、一般用休憩所としまして大型テントを含むテント3基を設置したほか、空き店舗を活用しまして、高齢者・障がい者向け休憩所を設置しました。また、ステーションパーク2階に休憩所を設置したほか、水戸信用金庫駐車場、ステーションパーク2階の2か所に赤ちゃんの駅も設置したところでございます。一般用休憩所、高齢者・障がい者向け休憩所ともに、終日多くの来場者にご利用いただいているところでございますが、来場者からは休憩所が少ないとのお

声をいただいているところでございます。

このような中、目標60万人に向け、現在は200席の休憩所の席数でございますので、休憩所を利用するに当たりましては、倍近い400席が必要であると考えております。このことも踏まえまして、今後、商工会議所等関係者と協議を図りながら、空き地や店舗の休憩所利用など、訪れる方が快適に過ごせるような検討をしてみたいと考えております。

以上でございます。

○議長（岡野孝男君） 4番・櫻井 茂君。

○4番（櫻井 茂君） よろしくお願ひしたいと思います。

次に、お土産についてお伺ひしたいと思います。佐原や川越のおまつりと決定的に石岡が違うのは、お土産の品数が絶対的に不足していることだと思います。遠方から来られるお客様は、お土産を買って帰りたいという思いもおありだと思いますけれども、残念ながらそういった品物がない、あるいは販売しているところが少ないというところがあると思いますので、商工会議所と連携していただき、商品開発ですね……。先ほど大槻議員のほうからも柿の質問がありましたけれども、残念ながらその時期が合いませんけれども、6次産業化ということで農産物の加工を工夫していただいて、そういったおまつりの時期に、石岡の強みであるフルーツの加工品、農産物の加工品というようなものもお土産品として、もし品ぞろえとして提供できれば、買っていただけるのではないかと思います。そうすれば地域にお金も落ちますので、ぜひそのような対応をしていただきたいと考えているところでございますけれども、どのような対応をお考えになっているのか、お伺ひしたいと思います。

○議長（岡野孝男君） 経済部長・諸岡君。

○経済部長（諸岡広明君） お土産についてご答弁申し上げます。おまつりのお土産につきましましては、現在、石岡市観光協会で作成しておりますおまつりグッズ、ティッシュやキーホルダーのほか、昨年度より年番町のピンバッチ、またはM U C Cのコラボグッズなどの商品を提供しているところで、好評をいただいているところでございますが、現在、一目で見て石岡のお土産だと言えるものが少ないと感じているところでございます。議員ご提案のとおり石岡を代表するようなお土産を、商工会議所等と連携して、今後考えてまいりたいと考えております。

以上でございます。

○議長（岡野孝男君） 4番・櫻井 茂君。

○4番（櫻井 茂君） ありがとうございます。石岡を代表するようなところまでいかななくても、極端な話、獅子頭のイラストをどら焼きに焼き付けるとか、お煎餅にそういう印をつけたものでも、多分買ってくれるんじゃないかと思います。これは私の単純な発想ですので、そのとおりになるかどうかは別にしましても、お土産品の増加を目指して取り組んでいただければと思います。

次に、関係団体、民間の方々の取り組んでいる受け入れ態勢についても、さらに充実をしていかなければ、60万人達成というものはなし得ないだろうというところで質問させていただきたいと思います。関係団体ということでの支援強化でございますけれども、今回、市の受け入れ態勢整備に関する支出額を資料請求いたしましたところ、平成

20年には警備や仮設トイレ等の支出総額が484万円、これが年々増加しております、今年は1,150万円となっているようです。約2.5倍ですかね、増加しております。

一方、観光協会やおまつり振興協議会に対する支援は、長い間横ばいというような状況でございます。おまつりに参加する各町内、とりわけ年番町は、地域内の商店の減少、戸数の減少が大きな負担となっている現状がございます。観光の目玉、見せるまつりのかげ声の中で、まつり衣装の統一や飾り付け、安全対策、人員の確保など、大変な思いの中で地域の伝統文化を守っております。そういった意味からも、関東三大祭りにふさわしい祭りとして認知されるようになった今、関係団体への支援強化についてどのようなお考えを持っているのかをお伺いしたいと思います。

○議長（岡野孝男君） 経済部長・諸岡君。

○経済部長（諸岡広明君） 関係団体への支援強化につきましてご答弁申し上げます。議員おっしゃっているとおり、平成20年度と比べ、警備や仮設トイレへの経費につきましては、相当、市の負担が増えてきているところでございます。このような環境整備や町内の見せるおまつりへの取り組みにより、来場者が増えてきてございます。今後、受け入れ環境整備など、市でできることは市で実施し、また、観光協会やおまつり振興協議会など関係団体への支援については、引き続き実施してまいりたいと考えているところでございます。

以上でございます。

○議長（岡野孝男君） 4番・櫻井 茂君。

○4番（櫻井 茂君） まつりは各町内が出し物を出しているというようなことで、それぞれに工夫をされているわけでございますけれども、町内の規模にもよりますけれども、例年のおまつりでは200万前後の予算でまつりを行っている町内が、年番町ともなりますと、数年にわたる準備の上で一千数百万円に上る経費と、延べ数百名の人員確保に奔走しております。平成が終わり、新しい御代を迎える来年度からは、例年のまつりでは交通規制にならない地域が年番を迎えていくようになります。地域面積が広い町内につきましては、交通安全対策や飾り付け、仮設トイレの設置経費がかさみます。一方、例年交通規制内の町内は人口減少が著しく、人員の確保と、1件当たりのまつり経費負担の増に苦労している現実があるようでございます。

石岡のおまつりが社会的に認知されまして、多くの方々が見学に訪れるようになってきた中で、そのまつりの質をさらに高めるための関係団体への支援について、市長のお考えをお伺いしたいと思います。

○議長（岡野孝男君） 市長・今泉君。

○市長（今泉文彦君） 関係団体への支援強化ということかと思っておりますけれども、今の年番制度ができたのが明治35年であります。その前に、明治20年に年番制度が始まったわけでありまして、そのときは年番が4町内、香丸、中町、守木、富田という4町内、通り4町内と言われておりますけれども、その4町内で明治20年から34年まで年番を行っていました。そのときですけれども、石岡が非常に大きく発展した時代でありまして、いろいろな町内が力をつけてまいりました。それによって、うちも入れてほしいということで、35年から15町内になったわけでありまして、その

ときは、4町内から15町内に増えた、時代が大きく変わったときであります。

〔「16」と呼ぶ者あり〕

○市長（今泉文彦君） 16で、実施したのが15町なんですね。

大きく変わったということで、発展していった時代であります。現在は、逆に15町内がもてあましていような、人口減少の中で大変苦しくなってきたという状況であります。縮小した時代であります。その時代の流れを読み解きますと、また新たにいろいろな議論を重ねた上で、年番制度のあり方などを考える時期になっているというのは、まぎれもない事実かと思えます。

そういったときに、これまでどおりの年番制度を維持していけるかどうか、これは慎重に取り組んで考えていかななくてはなりませんけれども、まつりの質を高めてきたという事実もございますので、そういった流れを、しっかりとおまつりの伝承をしていく方向で支えていくことが必要かと思っております。関係団体への支援強化については、そういった関係者の議論を踏まえて、しっかりとおまつりを石岡の最大の観光資源として考えていく方向で支援ができればということで、検討をしてまいりたいと思っております。

以上です。

○議長（岡野孝男君） 4番・櫻井 茂君。

○4番（櫻井 茂君） 今、市長のほうからは非常に難しいお話がございましたけれども、年番制度の考え方については、多分、議論するにしても相当な期間を要するんだろうと思えます。支援につきましては、いろんな形の支援があると思えますので、目に見える行政としての支援ができれば、積極的に行っていただきたいと思っております。

次の質問に入ります。ふれあいの里の駐車場の拡充について質問させていただきます。

ふれあいの里は、平成12年4月にオープン以来、ふれあいホール、介護研修室、入浴施設、ヘルストレーニング室、福祉レストラン、ターゲットバードゴルフ場等の多くの利用者でにぎわっております。しかし、これらの各施設利用定員に比べまして駐車場が狭いため、利用者の利便性が低下するケースもあるようでございます。駐車場拡充の必要性をどのように考えているのかについて伺ってまいりたいと思えます。

まず最初に、駐車可能台数、何台ほど確保されているのか、お伺いしたいと思います。

○議長（岡野孝男君） 保健福祉部長・小倉君。

○保健福祉部長（小倉俊彦君） ご答弁申し上げます。駐車可能台数につきましては、来館者駐車場といたしまして117台分を設置しております。また、イベント、発表会等、多数来館されるときは、臨時駐車場として自由広場、それからターゲットバードゴルフ場の外周通路部分を含めまして、合計で250台程度ございます。臨時駐車場を使用する場合には、施設を使用される団体側に車両の誘導をお願いしております。また、土曜日、日曜日に限りますけれども、職員駐車場を利用者駐車場といたしまして、約50台使用できるようにしております。平日におきましては、駐車台数が多く予想される場合には、公用車、職員の車は駐車場ではない空きスペースに移動しまして、職員駐車場が利用者の駐車場として、1台でも多く駐車できるよう対応している状況でございます。

以上でございます。

○議長（岡野孝男君） 4番・櫻井 茂君。



○4番（櫻井 茂君） 次に、駐車台数を今お伺いしましたけれども、その駐車場を利用される方が利用する各施設の利用定員数をお伺いしたいと思います。

○議長（岡野孝男君） 保健福祉部長・小倉君。

○保健福祉部長（小倉俊彦君） 各施設の利用定員ですけれども、団体使用施設といたしまして、ふれあいホール300名、介護研修室120名、料理教室30名、茶室10名、ふれあい工作室30名、計490名でございます。また個人使用施設といたしまして、ふれあい浴室1時間当たり男女各50名、ヘルストレーニング室20名、休憩室20名、湯上がり談話室56名の計196名でございます。また、福祉レストランの座席数は100名分でございます。それと、ターゲットバードゴルフ場の利用は、通常1日40名から50名の方が利用されております。

以上でございます。

○議長（岡野孝男君） 4番・櫻井 茂君。

○4番（櫻井 茂君） 今、各施設の利用定員数、この利用定員数が全て満杯ということとは多分ないとは思いますが、ただ、ふれあいホールの300席と入浴施設の50席ですか、これに附帯する幾つかの施設に利用者があれば、もうそれで400名近い方が一時的にはそこにいます。その中で、2人で1台に乗ってきたとしても、駐車場は不足してしまう。その場合は臨時で、先ほどご答弁いただいた自由広場やターゲットバードゴルフ場の外周を使うということになろうと思います。

そういった意味で、本来であれば施設設置者は、管理者は、その施設の定員数に応じた駐車台数を確保するのが私は義務だと思いますけれども、現状そうになってございませぬ。現実にふれあいの里が設置されて以降、いろいろな施設の整備をしていく中で、ターゲットバードゴルフ場なども後からできたということもあるかとは思いますが、駐車場は本来であればその台数を確保すべきだと思います。

先ほど、ターゲットバードゴルフ場で通常は四、五十名の方が練習されていると、利用されているというようなご答弁がございましたけれども、あそこは、本格的な正規の認定コースと言ったらよろしいんですかね、そういったこともありまして、大会が頻繁に行われているという話も伺いました。大会が行われる場合はどの程度の方が来られるのか、おわかりでしょうか。

○議長（岡野孝男君） 保健福祉部長・小倉君。

○保健福祉部長（小倉俊彦君） 大会があるときには100名ほど集まると聞いております。

以上でございます。

○議長（岡野孝男君） 4番・櫻井 茂君。

○4番（櫻井 茂君） わかりました。ターゲットバードゴルフ場は、当然昼間の利用ということになると思います。仮に大ホールですね、ホールのほうは夜が多いんでしょうけれども、現実には昼間、いろんなイベント事で、300名近い方が来られる利用のケースもあると思います。そうなれば、やはり駐車場の不足ということになりますので、仮にターゲットバードゴルフ場の大会が開かれているようなときに外周路を使うというようなことになると、大会に影響を与えかねませんので、そういった意味からも、やはりその拡充をすべきだと思いますのでお伺いしますけれども、これまで拡充の取り組

みということではどのようなことをされてきたのか、お伺いしたいと思います。

○議長（岡野孝男君） 保健福祉部長・小倉君。

○保健福祉部長（小倉俊彦君） 拡充の取り組みといたしましては、先ほどもご答弁申し上げた中に入っておりますけれども、あくまで敷地内を基本として、空いているスペースに職員等の車を移動して、利用者の方の確保に努めるという部分と、もう1点行いました点といたしまして、職員等の車につきまして、隣接する土地を一時的に借りまして、職員の車を移動して、利用者に供したということがございます。

以上でございます。

○議長（岡野孝男君） 4番・櫻井 茂君。

○4番（櫻井 茂君） いろいろ工夫されているのはよくわかるんですけども、職員駐車場のほうは入り口が違うということで、利用される方への案内の徹底というようなことも、多分あるんだろうと思います。

それで、駐車場の拡充、具体的にお聞きする前に、1点ちょっと確認しておきたいんですけども、利便性を高める視点ということでいきますと、実は駐車場から自由広場に入る進入路の一部、ここに狭い箇所があるんですよ。駐車場が一段低くなっていて、ターゲットバードゴルフ場と自由広場が一段高いところにある関係上、坂道を少し上がるところが狭くなっています、車1台しか通れません。そのため自由広場を駐車場として使う場合に、入るとい入りの車と、自由広場から出て戻る車が、1台しか通れませんから、バッティングするという言い方はちょっとあれですけども、どちらかが停止しなきゃならないんですけども、自由広場から出る際、植栽が邪魔で見えないんですよ、左折するのに。非常に私は常々危険だという思いがしておりまして、これは外周路を利用する場合も同じでありますけれども、そこをまず拡幅するという検討をされたことはございますか。

○議長（岡野孝男君） 保健福祉部長・小倉君。

○保健福祉部長（小倉俊彦君） 自由広場につきましては、今年度、臨時的に身体障がい者用の拡充ということでも使っておりますので、見通しがよくなるようにしたいと思っております。こちらについて、大会、イベント等終了後にも、誘導員の配置をまずお願いしていただいております。そういうことで、出入りに支障のないよう行っている状況ではございます。出入り口の拡幅につきましては、臨時駐車場の利用状況を踏まえて、出入り口が見通しよく、利用者が出入りしやすくなるように考えてまいりたいと考えております。

以上でございます。

○議長（岡野孝男君） 4番・櫻井 茂君。

○4番（櫻井 茂君） 今、利用者のほうで誘導員を確保してほしいと依頼しているところですけども、先ほど申し上げたように、要するに見づらいということもありまして、そうすると、誘導員は最低2人つけないと誘導できません。ということは主催者側にそれだけ負担をかけてしまいますので、施設を提供する側としては、やはりそこは安全性を確保するため、植栽の一部を取っ払って、道路として使えるように拡幅すべきだと思います。こちらについては、ご検討いただければ結構でございます。

そういったところもありますので、なるべくそういう自由広場を使わなくていいよう

に、本来の駐車場を広げるべきだと私は考えておりますので、この隣接地、そういったところの用地の確保などを検討されたことがあるのでしょうか。先ほどは敷地内の駐車場可能という答弁がありましたけれども、隣接地の確保を行って、そこを例えば臨時駐車場的に使うとか、そういう取り組みをしたことがあるかどうか、お伺いしたいと思います。

○議長（岡野孝男君） 保健福祉部長・小倉君。

○保健福祉部長（小倉俊彦君） これまでそういうご指摘をいただいているとは思いますが、ちょっと知り得る限りでは、隣接地の拡充というのは検討というか、されていないような状況かと思えます。

○議長（岡野孝男君） 4番・櫻井 茂君。

○4番（櫻井 茂君） ふれあいの里のほうには市の職員も派遣されていて、その管理に当たっていると思います。ホールの使用、あるいは入浴施設の利用者、ターゲットバードゴルフ場もそうでしょうけれども、たくさんの方が来られて駐車場が満杯の際には、大変クレームが入っているというようなことを、この間、直接お聞きしました。歴代の職員の皆さん、真面目だったようで、上司への報告がなかなかしていなかったんだでしょうかね。また、激しいクレームも少なかったんだと思います。というのは、臨時的にイベント事があると、今だけ我慢すればいいだろうし、しょうがないかという方が多分多かったんだろうとは思いますが、先ほど申し上げたように、施設の設置者の責任として、やはり安全で安心して使える駐車場の確保は必要だと思いますので、ぜひ隣接地の確保を検討していただきたいと思うんですが、当然、相手のあることなので難しいと思いますけれども、1つの案としては、立体駐車場化するというのもできるんじゃないかと思えます。簡易型の鉄骨で立体駐車場を設置している企業さんなんかもたくさん見受けておりますので、それらも含めて、今後駐車場の確保、どのようなお考えをしているのか、市長のほうにお伺いできればと思います。

○議長（岡野孝男君） 市長・今泉君。

○市長（今泉文彦君） 新たな駐車場の確保ということでありますけれども、利用者の方々の声、ニーズ、そういったものをしっかりと把握した上で、不都合がないよう、安全を確保するために創意工夫をして、危険回避など、一般的なレイアウトなども含めて検討してまいりたいと思っております。前向きに検討してまいりたいと思えます。

以上です。

○議長（岡野孝男君） 4番・櫻井 茂君。

○4番（櫻井 茂君） 今の敷地内での工夫は多分やり尽くしたんだと思います。平成12年にオープンしまして、18年、19年と迎えるというような状況でありますので、その間、駐車場の確保についてはいろいろな工夫をして、苦渋の選択として多分外周路を使っているということだと思えますので、外周路を利用された方もたくさんこの議場内にはいらっしやると思いますが、止める場所によっては車が1台しか止まらなくて、脇を抜けられないような狭いところもあるんですよね。ですから、やはりそういうところに止めさせて、途中で施設から出たいという方が、車をどかしてほしいなんていう放送をしてくださいますよということで事務局にお願いをするような事態にならないような、やはり駐車場の整備についてはなるべく早目に、どのようなことができるのか

ということをぜひ考えていく中では、隣接地、あるいは立体化、この辺しか多分ないと思いますので、ぜひ積極的な対応をお願いしたいと思います。

以上で質問を終わります。